

「西宮市 幼児期の教育・保育 審議会」について

「子育てするなら西宮」を実現するための、
新たな審議会が設置されました。

■新たな審議会が設置されました

本市は「子育てするなら西宮」と謳っていますが、

○多数の保育所待機児童の存在

○私立幼稚園に子供が通う家庭の負担額(入園料・保育料等)が、公立幼稚園に子供が通う場合に比べ、2倍を大きく超えるという格差の存在

○1・2歳児に対する保育士の配置が、私立保育所では保育士1人に子供6人、公立保育所では保育士1人に子供5人という格差の存在

○一定の基準を満たす認可外教育・保育施設に対する支援の不在

等、多くの課題が存在します。こうした課題に対応するため、私は、幼稚園と保育所を管轄する部署が異なるうえ、横の連携はほとんど存在しない現状を改めるよう、求めてきました。市は、こう

した指摘を踏まえ、本年7月「西宮市幼児期の教育・保育審議会(以下、**審議会**)」を立ち上げました。今年度の審議会では、主に

○保育所待機児童解消のための方策

○公・私立幼稚園間における、保護者負担の格差に対する考え方

について、審議を進めています。

■「子育てするなら西宮」実現のために

今後、審議会では**幼稚園・保育所はもちろん、認可外施設に通う児童、在宅児童も含めた就学前児童全体の教育・保育のあり方について審議を進める**ことになっています。これは「子育てするなら西宮」を実現するための大きな一歩です。審議会での議論を注視するとともに、積極的な提言を続けてまいります。

えっ！？待機児童を解消できない「解消計画」??

「待機児童解消計画」という名称に相応しい計画へと見直し、
保育所待機児童の解消に取り組むべきです。

■本市の現状

増大し続ける保育所需要に応えるため、市は昨年3月、「西宮市保育所待機児童解消計画」を策定し、対策を進めてきました。ところが待機児童数は計画の想定を大幅に上回るペースで増大しており、定員4520人に対して待機児童数が662人にのぼるなど、依然として待機児童解消の目途はたっていません(2010.10.1現在)。こうした状況を踏まえ、市は9月議会において新たな計画を示しましたが、その内容には重大な問題があります。

■待機児童解消を実現するために！

今回示された計画の最大の問題は「計画最終年度の平成26年度時点でも、待機児童を解消

できない」という点にあります。「**保育所待機児童解消計画**」という名称でありながら、**計画最終年度にいたっても待機児童を解消できない計画を策定する姿勢は、きわめて無責任です**。この点を厳しく追及したところ、市は

○「西宮市幼児期の教育・保育審議会」(上記事参照)における議論に一定の結論が出た段階で、具体的方策を示す

○審議会での議論・待機児童数の推移等を踏まえ、毎年度、計画内容を見直していく

考えを明らかにしました。「子育てするなら西宮」を謳う本市にとって、保育所の待機児童解消は喫緊の課題です。市は、その名称に相応しい計画を早急に策定し、着実に計画を推進することで、保育所待機児童の解消に取り組むべきです。

西宮市立中央病院について

廃止も含めた検討を進めるべきです。

■西宮市立中央病院の現状

西宮市立中央病院(以下、**中央病院**)の2009年度決算は収入50.5億円、支出56.5億円、計6億円の赤字。決算には市からの繰入金(=援助)8.6億円が含まれているため、これを除いた収入は41.8億円、赤字額は14.6億円。**中央病院は、市の援助がなければ、収入の1/3以上もの巨額の赤字を計上することになります**。多少の増減はあるものの、毎年、多額の赤字を計上し続ける中央病院の存在は、市政運営上、最も重要な課題の一つとなっています。

■廃止も含めた検討が必要です

市は、今後の中央病院のあり方について

①現在地・現建物で継続

②現在地で建替え

③移転して建替え

の三案を示し、各案の検討を進める考えを示しました。しかしながら、それぞれの案には、

① 施設の老朽化が進んでおり、長期にわたる運営継続は困難。

② 市が「立地条件の悪さ」を経営悪化の重大な要因としていることから、抜本的な経営改善策とはなりえない。また工事期間が長期にわたるため、必要な費用が多額にのぼる。

③ 経営状況が改善する保証はない。また、実現には約200億円(=市民一人あたり・約4万円)もの費用が必要になると予想される。

といった重大な問題があり、いずれの案についても、きわめて慎重な検討が必要です。

市内には複数の総合病院が存在しており、公立病院が存続しなければ、医療機能を喪失してしまう地域とは、状況が大きく異なります。**中央病院存続のために必要なコストと、市内に必要な医療機能を十分に考慮し、廃止も含めた検討を進めるべきだと考えます**。

西宮都市管理株式会社について

課題の整理と対応方針の明確化を求めています。

■西宮都市管理株式会社の現状

西宮市が筆頭株主の第3セクター「西宮都市管理株式会社」(以下、**都市管理(株)**)は、JR西宮駅前の商業施設「フレンテ西宮」の管理運営を行っています。しかし、都市管理(株)は
○4月に市から約10億円の資金を借入
○翌年3月末に銀行から一時貸付を受けて、一旦、市に借入金全額を返済
○その後、4月に再度ほぼ同額を市から借入という方法の繰り返しで資金不足を取り繕っており(※)、市の援助がなければ存続できません。
※昨年6月、総務省は、こうした手法による経営実態の隠蔽を止めるよう、全国の自治体に指導しました。

■課題の整理と方針の明確化を！

こうした状況を踏まえ、市は、現在一年ごとに

融資の可否を検討している9.9億円の短期貸付を35年間の長期貸付に切り替える考えを明らかにしました。しかしながら、**厳しい経営状況にある都市管理(株)が35年もの長期間存続できるのか、きわめて疑問です**。しかも市の示した計画には、
○都市管理(株)の出資者であるコープからの借入金3.7億円も、35年間の長期貸付に切り替える必要があるが、コープの同意は得られていない
○貸付期間中、都市管理(株)が倒産した場合のリスクが検討されていない

○大規模修繕・建替の費用が考慮されていない等、重大な問題が多数存在します。**貸付期間を長期化するのであれば、課題を整理するとともに、それぞれの課題に対する対応方針を明確に示すべきです**。貸付期間の長期化を拙速に決定することのないよう、今後の展開を注視してまいります。